

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	アフリカ系アメリカ人ビルドゥングスロマン研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	白木 三慶
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	白木 三慶

講演題目
アフリカ系アメリカ人ビルドゥングスロマン研究
研究の目的、成果及び今後の展望
目的：若者は何を考えているのか？学生が若者である割合が高い大学の教育に携わる者がこうした問いを持つことは当然と言えるでしょう。そして、私の研究対象はアメリカ文学（特にアフリカ系アメリカ人文学）なので、アメリカ文学は若者をどのように描いてきたのか？この問いが私の研究の目的になります。この問いがアメリカの若者が何を考えているのかという学生の関心もかき立てることを期待しています。文学研究の伝統に従い、若者を描く小説をここではビルドゥングスロマンと呼びます。 近年、アメリカのビルドゥングスロマンに関する研究書はいくつか出版されています。しかし、アメリカ文学における若者というテーマは断続的に研究者の注目を集め、古い研究書であっても興味深いものがあります。William Coyle は 1969 年に『アメリカ文学における若者（The Young Man in American Literature）』というアンソロジーを出版し、その序文においてアメリカ文学の若者の特徴をまとめています。その特徴を私の言葉で言い換えれば以下の 5 つにまとめることができます。「孤独、性的不安、アイデンティティ形成、社会あるいは両親への反抗、幼年期の幻想の喪失」。こうした特徴を個々の小説がどのように描くのか、あるいはこうした特徴から逸脱した若者を描く小説があるのか、こうしたことを考えながらアメリカ文学を読んでいます。 今年度の成果：2026 年 6 月に黒人研究学会がアメリカからノーベル文学賞を受賞したトニ・モリスンの専門家を呼んでパネルを開くことになり、そのための発表者を募集していました。私はその募集に応募し、発表が決まりました。研究者たちはモリスンの小説の多くがビルドゥングスロマン的とみなしています。モリスンについての私の発表はアフリカ系アメリカ人のビルドゥングスロマンと関連があるものです。発表後、この発表原稿を論文化することを目指します。 2025 年度の授業においても、この研究の成果を活かしています。アフリカ系アメリカ人女性作家アリス・ウォーカーが執筆した小説『カラーパープル』をスティーブン・スピルバーグ監督が映画化した作品を授業で学生と視聴しました。その授業では以下のように解説しました。「主人公のセリー・ジョンソンは虐待や家庭内暴力を受け入れる存在だったが、歌手で華やかなシュグ・アベリーと出会い、嫌なことには嫌と言える主体へと成長する。このように成長する主体を描くこの小説はビルドゥングスロマン的な性格を持つ」。こうして、授業においても若者の成長に注目し、文学作品を読み解いています。以上のように、私は今後も研究と教育が相互に影響を与える形でビルドゥングスロマン研究を進めていきたいと考えています。